



クラブスローガン

繋がりを深め、未来を拓く



国際ロータリー第2630地区 岐阜 Aグループ
岐阜中ロータリークラブ

Weekly Report

2025-26 RI会長メッセージ
よいことのために手を取りあおう

令和7年12月1日(月)

第1523回例会 第1437号

会 長 大橋哲也
幹 事 安澤嘉崇
発 行 公共イメージ委員会
例 会 火曜日 12時30分
会 場 ホテルグランヴェール岐阜
事務局 岐阜市神田町2-2
電 話 058-264-9235

会 長 挨 拶

会長 大橋哲也



2030年代に必ず起こる災害への備え

さて、先日は大変示唆に富む講演を拝聴する機会を得ました。京都大学名誉教授で、地球科学の第一人者であられる鎌田浩毅先生のお話です。先生は、地球科学の観点から、「2035年プラスマイナス5年」、すなわち2030年代には南海トラフ巨大地震が必ず発生すると断言されています。さらに、その巨大地震によって富士山の噴火が誘発される可能性が極めて高いという、私たち日本人にとって目を背けることのできない警告を発せられました。予想される被害は甚大であり、国家消滅級の危機とも言われています。しかし、講演の中で一つ、私たち岐阜に住む者にとって心に留めるべき言葉がありました。それは、この未曾有の複合災害において、比較的被害が少ない

と予測される「安全な地域」として、古都・京都、奈良、そして私たちの住む「岐阜」が挙げられたことです。岐阜の「安全」を活かすロータリアンの使命

これは、私たちがこの地で活動することの重要性を改めて示しているのではないのでしょうか。もちろん、私たちも災害への備えを怠るわけにはいきませんが、この岐阜の地が将来、被災地や被災者を支える重要な拠点となる可能性を考えると、ロータリアンとして果たすべき役割は非常に大きいと感じます。

「奉仕の理想」を掲げる私たちロータリークラブの使命は、まさにこうした非常時において、地域社会、そして日本全体を支える「レジリエンス（回復力）」の核となること。私たち岐阜中ロータリークラブの会員一人ひとりが、この地で「しっかりと足場を固め」、職業奉仕、社会奉仕を通じて地域経済とコミュニティを強固なものにしていくことが、結果として日本の危機を乗り越える力になると信じます。

本日も、この切実な危機意識を共有しつつ、例会を通じて親睦を深め、ロータリーの理想を実践する活力を養ってまいりたいと思います。

皆様、今期もどうぞよろしくお願い申し上げます。

卓 話

『健康診断結果報告』

卓話者 平野総合病院

平野聡子先生

※卓話はホームページへ掲載予定です。

岐阜中 RC 公式サイト

<https://gifunaka.com/>



卓話者 平野聡子先生



前 例 会 の 記 録

第1522回

2025年11月25日(火)

【点鐘】12時30分

【ソング】それでこそロータリー

【ゲスト】平野総合病院
平野聡子先生

【ビクター】

【出席】会員総数22名(出席免除 2名)

本日出席14名 70.00%

【行事】卓話『健康診断の結果報告』

平野総合病院 平野聡子先生
担当 出席向上委員会

次 回 予 定

第1524回

2025年12月9日(火)

【点鐘】12時30分

【行事】クラブフォーラム

担当 会長・幹事